

体育、保健体育 見方・考え方を働かせて資質・能力を育成するための学習過程の工夫

体育分野において、見方・考え方を働かせて資質・能力を育成するために、運動やスポーツは特性に応じた楽しさや喜びがあることと、体力の向上につながっていることに着目させるとともに、「すること」だけでなく「みること」「支えること」「知ること」など、児童生徒が自己の適性等に応じた多様な関わり方を見いだすことができるように、学習過程を工夫することが大切です。

中学校第1学年 E 球技 ネット型：バレーボールの授業例（6／12）

【本時のねらい】 チームでボールをつなぐために、提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んだり、課題や出来映えを伝えたりすることができる。



学習過程の工夫のポイント

※Tは教師、Sは見方・考え方を働かせて学ぶ生徒の姿

導入	<p>①：前時の振り返りやICTを活用し、本時の見通しをもたせる。</p> <p>②：ネット型の特性や既習の知識と関連付けながら、生徒と共に学習課題を設定する。</p>	<p>①⇒(T) 前時の試しのゲームの振り返りを、S1さんから発表してもらいます。 (S1) ラリーが続いて点をとれると楽しいけれど、あまり続きませんでした。</p> <p>②⇒(T) チームでボールをつないで点をとれるとうれしいですね。ゲームでも3回でつないで攻防を楽しむためには、どうしたらいいと思いますか。 (S2) 相手から来るボールに備えて準備姿勢をとるといいと思います。</p>
展開	<p>③：課題を解決するための練習方法を提示し、選択させる。</p> <p>④：既習を生かしながら思考し、判断したことを伝え合う場を設定する。</p> <p>⑤：生徒の実態に応じたルールを取り入れて簡易ゲームを行い、課題練習の成果を確かめる。</p> <p>⑥：運動を「する」ことだけでなく、「みる・支える・知る」などの多様な関わりができるような場を設定する。</p>	<p>③⇒(S1) 円陣パスは前の時間に結構続いたけれど、ゲームではうまくつながらなかったよね。今日は1対3にして、ゲーム形式で練習してみようよ。</p> <p>④⇒(S2) レシーブの準備姿勢は、ソフトボールで学んだ守備の準備姿勢と似ているね。もう少し膝を曲げて、低い姿勢で構えるといいよ。 (S3) 額の上で三角形をつくって、キャッチしてからトスを試してみたら？</p> <p>⑤⇒(T) チーム内でボールをつなぐには、どんなルールにしたらいかな？ (S3) 特別ルールで、セカンドキャッチを取り入れるといいと思います。</p> <p>⑥⇒(T) 審判のチームはアドバイスカードに、3回でつないでとった点数や技能のポイントを書いたり、タブレットで撮影したりしましょう。 (S2) Aチームは私たちのチームより、3回でつないでとった点数が多かったね。課題解決の練習で、準備姿勢を意識して取り組んだからだね。</p>
終末	<p>⑦：本時や次時のねらいにつながる振り返りに焦点を当て、変容を全体で共有したり、次時の学びにつなげたりする。</p>	<p>⑦⇒(S1) 動画で見ると、ボールを打った後に次の攻撃に備えていないことが分かるね。ボールにおへそを向けることを意識したらどうかな？ (S3) 準備姿勢を意識して1対3の練習をしたら、味方が操作しやすい高さのパスをするとボールがつながりやすいことも分かりました。次は相手側のコートの空いた場所をねらってボールを返したいです。</p>

単元など内容や時間のまとまりの中で、体育ならではの見合いや教え合い、励まし合いを活発にする場面を意図的・計画的に設定し、多様な関わりを通して、体育、保健体育科の目標である「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成」を図りましょう。

